

心揺さぶる 気迫のタクト



©Jun Yoshimura

2015年に始まった毎年4月恒例の「大阪4大オーケストラの響演」は、「4オケ・スペシャル」と銘打って、大阪交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、関西フィルハーモニー交響楽団、日本センチュリー交響楽団の4楽団が合同オーケストラを組む。佐渡裕の指揮でホルストの組曲「惑星」とリヒャルト・シュトラウス「アルプス交響曲」を演奏。広大な宇宙と大自然のパノラマを、「オール大阪」の壮大な響きで聴かせる。

4月20日 4オケ・スペシャル

これまでの4年は、各楽団がそれぞれの首席指揮者と1曲ずつ演奏してきた。演奏順が一巡し、今回は初の合同演奏。

「惑星」は、太陽系の星の名をつけた七つの曲からなる組曲で、それぞれの星の性格が神秘的、幻想的に表現される。名旋律が多い人気曲だ。

さだ・ゆたか 1961年、京都市生まれ。同市立芸術大を卒業し、故レナード・バーンスタインや小澤征爾らに師事。89年、仏プザンソン指揮者コンクール優勝。現在、オーストリアのトーン・キンストラ管弦楽団音楽監督、兵庫県立芸術文化センター芸術監督、シエナ・ウインド・オーケストラ首席指揮者。

宇宙と自然のパノラマ 壮大に

オケという特別企画に。編成は「アルプス」約130人、「惑星」約110人で、4オケの団員全員がどちらかに参加する。「惑星」には大阪府立夕陽丘高校音楽科の生徒80人が加わり、合唱を担当する。

「アルプス交響曲」は少年時代の登山の思い出を基に、50代となった作曲家が書き上げた自然賛歌。夜明けから日没までのアルプスの風景と登山者の心情が、繊細なオーケストレーションでありありと描き出される。



植谷綾二撮影

おたか・ただあき 1947年生まれ。NHK交響楽団正指揮者、英BBCウェールズ・ナショナル管弦楽団桂冠（けいかん）指揮者、読売日本交響楽団名誉客演指揮者。ロンドン交響楽団、ロンドン・フィル、BBC交響楽団、パーミンガム市交響楽団ほか、国内主要オーケストラに客演している。

「声も演技も人柄も素晴らしい。いま一番安心してこの役をお願いできる人。演奏会形式なのでダンスがないのが残念と笑う。11年にその新国立で「サロメ」

「筋だけだと少々グロテスクですが、シュトラウスの音楽はサロメを、欲望に突き動かされるが純真さと美しさを持つ少女と造形している。対するヨカナンは狂傲で崇高。サロメが悲劇的な結末を迎えたのは、あまりに自分に正直だったためだと思います」

少女らしいけれど、狂気じみた淫靡さを表現しなければならぬサロメはオペラ屈指の難役。今回起用したリカルダ・メルベートは、シュトラウスとワーグナー作品で現代を代表するソプラノだ。2012年に東京の新国立劇場でワーグナー「ローエングリン」を歌った時は、尾高がオペラ部門の芸術監督だった。

「サロメ」は演劇的で文学的なオペラです。テキストが自分の感覚とうまく溶け合った時の響きは素晴らしいもので、シュトラウスの創出した魅力的なハーモニーには心を打たれます。この音楽が生み出すあふれるパワーを、公演が終わった時に心の糧として、皆さんにお持ち帰りいただきたいと思っています。

尾高は4月に大阪フィルハーモニー交響楽団の音楽監督に就任。ベートーベンの交響曲全曲演奏会などに取り組んでいる。

「よく音が鳴り、気迫が表に出てくる。指揮をしていて体が後ろへ押されるほどの音圧を感じるオケは、日本ではNHK（NHK交響楽団）、読売（読売日本交響楽団）、そして大フィルです」

大フィルの重厚な響きには、R・シュトラウスやワーグナーなど後期ロマン派の音楽が合う、というのが今回「サロメ」を取り上げた理由の一つだ。

「R・シュトラウスは若い頃から死ぬまで、幅広いジャンルで天才ぶりを発揮した作曲家ですが、とりわけ声とオーケストラが一緒になったものが素晴らしい。歌手も奏者も、音楽に浸り、うっとり幸せになれる美しさがあります」

「僕も後期ロマン派は大好き。特にシュトラウスは、おなじみ（指揮者の尾高尚忠）がウィーンに留学していた時に同じ空気を吸っていたわけで、身近に感じていた」

R・シュトラウスは「ツアラトウストラはかく語りき」「英雄の生涯」などの交響詩や数多くの歌曲と並んでオペラに熱心に取り組んで、「エレクトラ」「ばらの騎士」などの傑作を残した。それらに先駆け1905年に発表した「サロメ」は、オペラ作曲家としての名声を確立した作品だ。

原作は聖書の挿話を基にオスカール・ワイルドが書いた戯曲。とらわれの預言者ヨカナンを誘惑して拒まれたサロメが、義父で領主のヘロデの前で妖艶な「七つのベールの踊り」を見せ、ほうびにヨカナンの首を所望して生首にキスをする。緊密で色彩豊か、官能性濃厚な音楽が特徴だ。

6月8日 オペラ「サロメ」

「サロメ」は、オペラ作曲家としての名声を確立した作品だ。原作は聖書の挿話を基にオスカール・ワイルドが書いた戯曲。とらわれの預言者ヨカナンを誘惑して拒まれたサロメが、義父で領主のヘロデの前で妖艶な「七つのベールの踊り」を見せ、ほうびにヨカナンの首を所望して生首にキスをする。緊密で色彩豊か、官能性濃厚な音楽が特徴だ。

「サロメ」は演劇的で文学的なオペラです。テキストが自分の感覚とうまく溶け合った時の響きは素晴らしいもので、シュトラウスの創出した魅力的なハーモニーには心を打たれます。この音楽が生み出すあふれるパワーを、公演が終わった時に心の糧として、皆さんにお持ち帰りいただきたいと思っています。



「サロメ」は演劇的で文学的なオペラです。テキストが自分の感覚とうまく溶け合った時の響きは素晴らしいもので、シュトラウスの創出した魅力的なハーモニーには心を打たれます。この音楽が生み出すあふれるパワーを、公演が終わった時に心の糧として、皆さんにお持ち帰りいただきたいと思っています。

サロメ役 リカルダ・メルベート 音楽が生むパワー 届けたい

サロメを歌うにはドラマチックな声が必要ですが、同時に、オペラの始まりには軽い声も持っていないとなりません。その声は、時にオーケストラの上に乗る、時にシンフォニックな響きの中に溶け込みます。このような難題に挑戦するのはとても面白く、楽しいことです。賢く、勇敢に、公演全体に必要な力量を上手に分配して、オケと指揮者と一緒に関り上げること

母国で創設の楽団 日本デビュー飾る



©Young Bin

世界的指揮者でNHK交響楽団首席指揮者としてもおなじみのパーヴォ・ヤルヴィが、母国エストニアで2011年に創設したエストニア・フェスティバル管弦楽団を率いて、同団の日本デビューを飾る。大阪出身の世界的バイオリニスト五嶋みどりをソリストに迎えたシベリウスのバイオリン協奏曲と、同じくシベリウスの交響曲第2番などを演奏する。

同管弦楽団は、新しい夏の音楽祭「パル又音楽祭」を本拠とするオーケストラとして結成された。エストニアの才能ある若手と、欧州各地の一流オケで活躍している奏者を集めた、いわば「ドリームチーム」。「エストニアの若手とスターが交流し、親密でハッピーで質の高い音楽を奏でる、そんなフェスティバル的なオケをつくるのが長年の夢だった」とヤルヴィは語る。

エストニアから徐々に活動範囲を広げ、独立100周年を迎えた今年にはウィーンやベルリンなど欧州主要都市をツアー。記念事業の一環として来日し、4月に6公演を行う。

千円、BOX席1万4千円、バルコニーBOX席（2席セット）1万7千円、学生席千円/協賛：朝日放送グループホールディングス、京阪ホールディングス、サントリーホールディングス、高砂熱学工業、竹中工務店、日本取引所グループ（JPX）

■パーヴォ・ヤルヴィ指揮エストニア・フェスティバル管弦楽団 2019年4月28日（日）午後3時/ベルト「ベンジャミン・プリテンへの追悼歌」、シベリウス「バイオリン協奏曲ニ短調」（バイオリン・五嶋みどり）、トゥール「テンペストの呪文」、シベリウス「交響曲第2番」/S席1万8千円、A席1万5千円、B席1万2千円、C席9千円、D席6千円、BOX席2万2千円、バルコニーBOX席（2席セ

ット）3万6千円、学生席3千円/協賛：高松建設

■リヒャルト・シュトラウス「サロメ」（演奏会形式） 2019年6月8日（土）午後3時（公演時間約1時間40分。休憩なし）/尾高忠明（指揮）、大阪フィルハーモニー交響楽団、リカルダ・メルベート（サロメ）、福井敬（ヘロデ）、加納悦子（ヘロディアス）、友清崇（ヨカナン）、望月哲也（ナラポート）、中島郁子（ヘロディアスの小姓）ほか9名/S席8500円、A席7千円、B席6千円、BOX席1万4千円、バルコニーBOX席（2席セット）1万7千円、学生席千円/協賛：朝日放送グループホールディングス、関西電力、竹中工務店、豊田自動織機、西原衛生工業所、協力：大阪芸術大学

◇「4オケ」「エストニア・フェス管」「サロメ」のチケット一般発売は11月25日（日）午前10時から、フェスティバルホール（06・6231・2221）ほか主要プレイガイドで。同ホール・オンライン先行予約受け付け中（<https://www.festivalhall.jp>）。このほかに、2019年は4月21日（日）に提携公演「東京都交響楽団・大阪特別公演」（指揮は大野和士）、9月に「新国立劇場こどものためのパレエ劇場＜白鳥の湖＞」、11月に「クリスティアン・ティーレマン指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団・大阪公演」を開催予定。

◇取材=小原篤

第57回大阪国際フェスティバル2019

会場：フェスティバルホール（大阪市北区）
主催：朝日新聞文化財団、朝日新聞社、大阪国際フェスティバル協会、フェスティバルホールなど

■大阪4大オーケストラの響演「4オケ・スペシャル」 2019年4月20日（土）午後3時（午後2時半からイベント）/佐渡裕（指揮）、4楽団合同オーケストラ（大阪交響楽団・大阪フィルハーモニー交響楽団・関西フィルハーモニー管弦楽団・日本センチュリー交響楽団）、大阪府立夕陽丘高校音楽科（合唱）/ホルスト「惑星」、リヒャルト・シュトラウス「アルプス交響曲」/S席8500円、A席7